



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

「ヒバクシャ国際」署名を世界へ

原水爆禁止2017年世界大会

2017年8月4日～9日にかけて広島・長崎で原水爆禁止2017年世界大会が開催されました。全労連青年部は長崎大会にて青年分科会、Ring!Link!Zero!2017 in Nagasaki を企画運営や警備の任務を務めました。双方の企画には全国各地から約450人の参加者が集まりました。



全国と世界と交流 Ring!Link!Zero2017 in Nagasaki



8月7日「Ring!Link!Zero!2017 in Nagasaki 核兵器禁止実現へ～Ban Nuclear Weapons!～」には全国各地から約450人もの青年が参加しました。集会では長崎市長からの集会へのメッセージが読み上げられ、被爆者で日本原水協事務局次長でもある和田征子さんと被爆三世の筒井涼介さんによる対談、集会参加者からのフロアー発言が行われました。

対談の中で和田さんは母親の被爆体験を交えつつ、核兵器を何としてもなくしたいという思いで被爆体験を語ってきたとし、核兵器禁止条約の採択については「一筆一筆の署名がいろいろな人の励みになり、世界を変えるのを感じた」と述べました。筒井さんは「祖父母をはじめ、被

爆体験を聞いて被爆の実相に触れてきたことが大事だった」と述べ、被爆遺構ガイドやニューヨーク行動に取り組んできた体験を紹介しました。

フロアー発言では広島で核兵器禁止条約の採択を歓迎するパレードを成功させた経験や被爆者検診に取り組む中で核兵器を無くす取り組みにも参加するようになった研修医の経験、国民平和大行進・国際青年リレーに参加したフィリピンの青年からの発言などがありました。

集会の終わりにはアピールが読み上げられ「ヒバクシャ国際署名」の推進や「平和の波」行動の成功を誓い合って閉幕しました。

参加者からは「核兵器禁止条約が、本当に劇的に生まれたんだということを実感した」「核保有国のアメリカに住んでいる青年が、自分の言葉で核をなくしたい思いを語っていて感動した」「和田さんが1歳10ヶ月で被爆されたと聞いて、私が今まさに保育園で担任をしているのが1歳児クラスであり、毎日一緒に過ごしている子が原爆の被害にあったり、戦争に行かなければならなくなる将来を想像するとすごく怖いですし、絶対にそうさせてはならないと改めて強く思いました」などの感想が寄せられました。(参考資料：2017世界大会報告集)



新しい挑戦 第10分科会「青年のひろば」

8月8日第9分科会「青年のひろば」では全国から450人が参加しました。冒頭に原爆投下直後のナガサキの映像を見たのち例年行われている「被爆者訪問」「被爆者からの聞き取り」、そして証言を行うことができる被爆者が減っていく中で被爆体験・戦争体験の継承について今後を考えようと作られた企画、史跡や長崎の各所で被爆者の手記を朗読し当時の状況を追体験する「追体験企画」、現地長崎の青年が企画に参加した「東本願寺長崎教務所訪問」を行いました。

参加者からは、『想像すること』の大切さを身に染みて感じた」「原爆が、楽しいことがたくさんあった日常の中に落とされ、何もかも壊したのだと実感」「分科会冒頭に原爆投下直後の映像を見ていたから、炎天下の中、その映像を思い出しながら、72年前をリアルに想像することができた」といった感想が寄せられました。





CITY OF NAGASAKI

メッセージ

「Ring! Link! Zero2017 in Nagasaki」が長崎市民体育館で開催されるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りいたします。

1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受けました。すさまじい爆風と熱線により7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が負傷しました。あの日から72年目を迎える現在も多くの方が放射線による後障害に苦しんでいます。

今年7月7日、被爆者や志を同じくする人々の長年の願いが実を結び、国連本部で、核兵器を違法とする「核兵器禁止条約」が誕生しました。これは核兵器廃絶に向けた歴史に新たな1ページが記された瞬間でした。

しかし、核兵器を持つ国や核の傘の下にいる国々はこの条約に反対しており、即刻核兵器が廃絶されるわけではありません。

この条約を活かし、「核兵器のない世界」の実現に向けて前進していくためには、私たち一人ひとりができることは何かを考え、一步を踏み出すことが重要です。

今回の「Ring! Link! Zero2017 in Nagasaki」にご参加の皆様は、まさに自分のできる一步を踏み出された方々だと思います。これからも核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて、長崎市民とともに歩まれることを期待します。

最後に、「Ring! Link! Zero2017 in Nagasaki」のご成功と、皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成29年8月7日

長崎市長 田上 富久

核兵器禁止条約を力に、「核兵器のない世界」を私たちの世代で実現しよう！

世界の青年のみなさん、

まもなく、長崎に原爆投下されてから 72 年を迎えます。被爆者のみなさんをはじめ、「核兵器のない世界」の実現をねがう人々の努力で、いま、歴史の新しいページが開かれています。

7 月 7 日、国連本部の交渉会議で、核兵器禁止条約が、賛成 122、反対 1、棄権 1 の圧倒的多数で採択されました。国連加盟国の 6 割以上の国々が、ヒロシマ・ナガサキを引き起こした残虐な核兵器を「違法」とすることに賛成したのです。

条約は、前文で核兵器が非人道的な残虐兵器であることをはっきりと述べ、核兵器が二度と使われないためには完全になくすしかないとしました。その上で、核兵器をつくることも、実験することも、持つことも禁止し、核兵器を使うことや核兵器で脅すことも禁止しました。これだけでなく、核兵器を受け取ったり譲り渡したり、核兵器を自国領域内に置くことを許すことも禁止しました。これらを守ることができれば、ヒバクシャの願いである「核兵器のない世界」を実現し、未来を生きる世代はより平和な世界でくらすことができます。

こうした画期的な条約採択の力になったのは、「核兵器のない世界」の実現を求めて行動してきた草の根の人びとです。条約交渉会議には、核兵器を禁止し廃絶する条約をもとめる「ヒバクシャ国際署名」が約 300 万筆提出されました。会議にあわせたニューヨーク行動には、日本をはじめ世界からたくさんの青年が参加し、会議の参加者を励ましました。

核兵器禁止条約を力にして「核兵器のない世界」を実現するためには、核保有国やその「核の傘」の下にある国を条約に加わらせなくてはなりません。これらの国は、北朝鮮の核・ミサイル開発や、テロなどの「脅威」を口実に、条約に背を向けています。しかし、力による脅し合いで平和がつかれません。国同士のもめごとは、核兵器ではなく、平和的・外交的な手段で解決すべきです。

日本が条約交渉会議に参加しなかったことは被爆国にあるまじき姿勢です。私たち日本の青年は許すことができません。ヒロシマとナガサキの惨禍をふまえて、戦争も戦力も放棄した憲法を持つ日本は、ヒバクシャのねがいと憲法の命ずるままに、核兵器禁止条約に加わるべきです。

今日の集会で、ヒバクシャのみなさんから被爆の実相や「核兵器のない世界」をめざすたたかいを学んできました。今日の集会をきっかけに、すべての国が核兵器禁止条約に加わるよう、以下の行動にとりくみましょう。

1. 核兵器禁止条約の採択や条約の意義など、「核兵器のない世界」に向けた歴史的な情勢をまなび、自分の周りに広げましょう。
2. ヒバクシャの話を聞く会や原爆展など、被爆の実相を広めることを通して、核兵器禁止の声を広げましょう。「ヒバクシャ国際署名」をさらに集めましょう。

2017 年 8 月 7 日

Ring ! Link ! Zero 2017 in Nagasaki 参加者一同